

Title	百貨店における新しいマネジメント
Sub Title	
Author	元田利文(Motoda, Toshifumi) 柴田典男
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1386号 その他:一部のみ
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1386">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1386</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 百貨店における新しいマネジメント

百貨店の業務改善のための政策の1つとしてマーチャンダイジングを総合的に改革することが必要であると云われて久しい。しかしながら、それが大きな成果をあげていないのは、商品別に販売管理活動を反映した、正しい収益力の把握がなされていないことに因ると考えられる。商品の仕入れから販売にいたる過程には、商品ごとに様々に異なった活動が消費され、従って商品ごとに原価の負担は大きく異なる。そのため既存の会計システムでは正しい利益情報が把握できない。これを解決するためには新しいマネジメントシステムの導入が必要である。

新しいマネジメントシステムはABCとリエンジニアリングの考え方を適用して構築することにした。これらの考え方は間接費の管理に重点を置き、その効果的な削減を目的としている手法であり、百貨店の問題解決に大きな効果を発揮すると考えたからである。

本稿においては、伊勢丹府中店を試行店舗として採用した。そこにおける商品・売場別の原価をABC方式で算出した結果、従来の認識とは全く異なる現状が次のように判明した。

- ①百貨店の伝統的な計数管理は有効性に乏しく意思決定を誤らせる可能性がある。
- ②百貨店関係者が抱いている利益のイメージには現実とのギャップが存在する。
- ③百貨店の業務には非付加価値アクティビティが多く存在し、そのコストも非常に大きいものである。

これらの問題を解決するためには、リエンジニアリングの方法を用いて非付加価値アクティビティを排除し、ビジネスプロセスのデザインを見直すことが必要である。これを徹底することにより、百貨店は顧客志向と効率性を同時に高めることができる。本論文ではその具体的方策を示した。